

# 豊庄だより



第 711 号 2022 年 6 月 8 日

前号に続き、新人紹介をします。今号はもも組担任の北原奈歩(なほ)さんです。自己紹介と現在の心境を書いていたいただきました。※掲載しました 3 枚の写真は、入園式、5 月 16 日、6 月 3 日に撮ったものです。

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達



4 月から豊庄保育園で保育士として働いています、北原奈歩です。「実習生」ではなく「保育士」として働き始めてから、あっという間に2か月が過ぎて行っていました。自分の未熟さを痛感する日々ですが、先輩の先生方からの優しく丁寧な指導を通して多くの学びを得るとともに、幼少期から憧れていた保育士として子どもたちの成長を見守ることができる喜びでいっぱいの充実した毎日です。

そんな日々を送る中で、感じること・考えることは多くありますが、特に強く感じることは、子どもたち 1 人ひとりの気持ちを受

け止め寄り添うことの大切さについてです。

私が担任として過ごすもも組の子どもたちは、4月から初めての保育園での生活という慣れない環境での生活を始めました。初めの頃は、不安や寂しさで泣いてしまう姿がほとんどでした。そんな中、先生方は子どもたち 1 人ひとりの様々な形で伝える、不安や寂しさを受け止め寄り添っていました。子どもたちは、今では自分からハイハイやつたい歩き、ずりばいで移動して遊んだり、保育士や他の子どもたちに向かって楽しそうに声を発し笑顔を見せてくれたりしています。

また、もも組以外の子どもたちの姿を見ると、元気に大



きな声で挨拶をしてくれる、積極的に縄跳びやフラフープ、鉄棒に挑戦する、自分から泣いている年下の子どもを慰める、片付けの時間になると協力して玩具を片付けるなどの姿が多くあります。

子どもたち 1 人ひとりの気持ちを受け止め、寄り添うことの積み重ねが、このように基本的・社会的な生活習慣、思いやりの心を身に着けながら、のびのびと過ごすことができる姿、子どもたちが本来持っているであろう可能性を引き出すことにつながっているのではないかと思います。

まだまだ未熟な身ですが、私も子どもたち 1 人ひとりの気持ちを受け止め寄り添い、「この先生なら大丈夫」という風

に安心してもらえるような保育士を目指して頑張ります。よろしく願いいたします。

北原さんは学生時代、児童文学の授業で絵本の面白さに出会い、中でも中川李枝子さんやかこさとしさんの作品に没頭。もも組における絵本の読み聞かせはこれからの取り組みになるとは思いますが、期待しています。